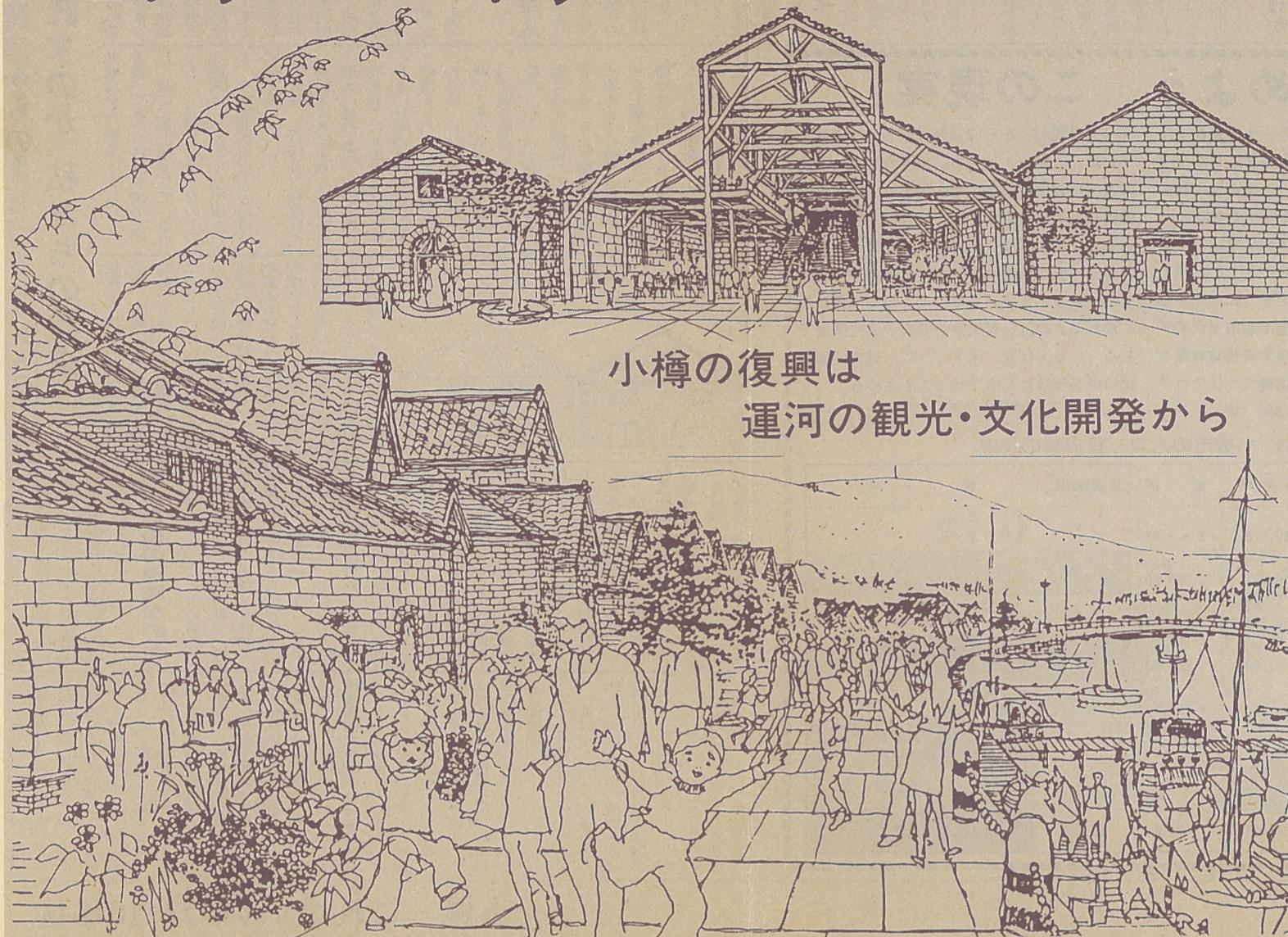


運河は小樽をよみがえらせる



小樽の復興は
運河の観光・文化開発から

運河拾萬人新聞

〈発行〉
小樽運河百人委員会

十年後の私達の街

方向は運河までつながっています。運河にでれば、水は青々と潮の香りも漂い、足元には草花も咲きそろいベンチには恋人達のカップル、水遊びをする子供達、東京や札幌からやって来たカラフルな旅行者達でにぎわっています。町並みとし保存された石造倉庫群はきれいに修復されて、水もきれいになり修景された運河とともに、名実ともに日本近代史の三大景観の一つにふさわしいものになつてきました。倉庫群も一步中に入れば中庭をつくつて近代的な店舗、ホテル、ピアホールに改修したものからシーフードのレストランやエキゾチックな外国料理店地場の食品加工や木材加工品、それにガラス工芸品など、なかなかの人気のよ

うです。それに国外の工芸品や雑貨の店も増えて来ました。研修施設や美術館、小ホールも公共の運営ながります。

洪に目を転じてみますとふ頭は再開発され、新設されたヨット・ハーバーには市内外の人たちのヨットでいっぱいです。ふ頭にはマリン・スポーツセンターがつくられ、釣り好きの子供たちからお年寄りまでも楽しく利用しているようです。

幹線道路を中心部からはずくられ、業務や観光客につくられたので、車の混雑も以前より緩和され駐車場も周辺部や再開発された港湾部にこの街の十年前がまるで遠い昔話のようです。若者達も戻って来るようになります。何よりも人々が明るさをとり戻したようです。

運河保存運動の中での今、思うこと…

峰山富美

運河保存を訴えてからすでに十年経った、古いものだから珍しいものだから残すのではなく。そこに住む人間にとつて大切なものがだらけた証である文化的、歴史的遺産はまだ埋め込まらない。水辺の倉庫群のおりなす空間の造型は、うるおいやささぎを与え小樽の精神風土となっている。

更にここを核とした再開発の道も開かれて、埋立て見直しの気運が高まつた。

促進派の経済界の首脳部が百八十度転じ見直しを訴えていたことはまことに見事である。

私は枕を前に市民の意

志を聞く署名を集めた。今まで運動にかかることがなかつた主婦が、「若者が必死になつて活動し、もえにもえた。そして十萬近い署名を集めた。併しう

が、すべての人たちが、ボランティアで活動したのです。小樽における署名数の過去最高はお

年9月12日、あらゆる階層、職業、年令の市民が集まり、「運河を保存し港線に道路」とい

う事で「小樽運河百人委員会」が結成されました。この運動は、あらゆる思想・信条・立場を

河を保存し港線に道路を」とい

う事で「小樽運河百人委員会」が結成されました。この運動は、あらゆる思想・信条・立場を

過半数を越える10万人署名をやりこえ、その事が從来の弊をこそ成したのです。しかしながら大きな拡張となり、市内

のすみすみまで市内の共感を呼び起し、市民による市民の為の市民連合が出来たのです。

私達は運動の目標として小樽の民の運河保存へ向けての熱い期待が大きくなっています。しかし大半の市民は、公式答弁のなか

のすみすみまで市内の共感を呼び起し、市民による市民の為の市民連合が出来たのです。しかしながら大きな拡張となり、市内

のすみすみまで市内の共